

どさんこ協力隊 からの手紙

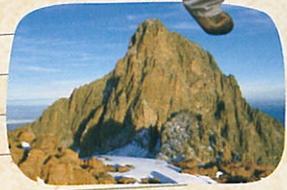


わあ、自然がいっぱい！
僕の仲間のシカさんはいないかな？



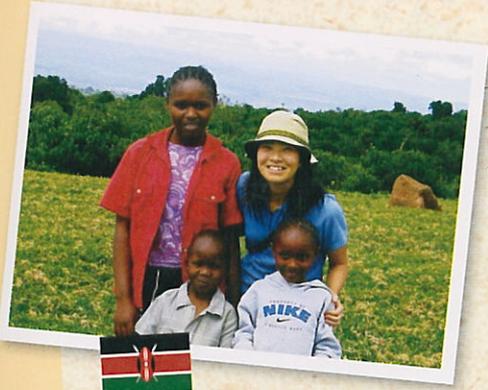
ケニアにも氷河!?

ハムジャンボ!(スワヒリ語で「みなさん、こんにちは!」)
私は、青年海外協力隊として、アフリカのケニアで暮らしています。
みなさんは、「ケニア」と聞いて、どのようなことをイメージしますか?
「象!」「ライオン!」「サバンナに沈む真っ赤な太陽!」「マサイ族!」
私も、ケニアの地に立つ前までは、「野生の王国、ケニア」のイメージを描いていました。しかし、ここで暮らしはじめ、ケニアの多様な姿に驚きました。高層ビルの建ち並ぶ首都のナイロビ、42の部族の人々、サバンナだけではなく、山や海の多様な自然環境...例えば、氷河が残っている、アフリカで二番目に高いケニア山、亀やイルカが泳ぐ青い海など。ケニアは、自然が豊かな国である一方、最近では、象やライオンを見たことのないケニアの子供達も実は増えてきています。またケニアでは、近年、森林が少なくなってきました。今年も雨季に降るはずの雨が少なく、それにより水不足が深刻な状況になっています。このような中、ケニアには、植林に積極的に参加している子供達や、ケニアの野生動物を始めとする森や海などの自然を守るために取り組んでいる人達もたくさんいるのです。



▲氷河の残るケニア山

私は、このようなケニアのさまざまな自然と、たくましく陽気なケニアの人々に囲まれながら暮らしています。そして、北海道に戻った際には、日本の皆さんにこのケニアの暮らしについてお話することを楽しみにしています!



青木 倫子 さん

平成19年度4次隊
職種:環境教育
任期:2008年3月~2010年3月
出身:北海道東川町
現在ケニアで活動中。



▲水運びをする子どもたち

とってもキュートな象の後ろ姿



2年間のドミニカ生活

私は首都からバスで5時間ほど離れた町の、小さな診療所で活動しました。同僚はドミニカ人の看護師や医師です。貧しい地域では裸足で生活する住民が多くいます。診療所にはガラスの破片などで皮膚を切る患者が多く来院し、日本と同じように皮膚縫合をします。私とその縫合を初めて見たときの感想は、「なんて不潔なんだろう!」でした。人の体を縫合するときに使用する針や糸は清潔でなくてはなりません。不潔なものを使用すると感染を起こして皮膚が化膿することもあるからです。しかし、医者の手技がどんなに不潔でも、どんなに傷が汚れようとも、ドミニカ人は感染もせず元気そのものです。日本人とドミニカ人では生活環境も違えば、体の抵抗力も違うのでしょうか。そんなことにも気づけず、私は日本の医療が正しいと決めつけ、私の持つ知識をドミニカ人に押し付けてしまいました。そのような失敗を星の数ほどしましたが、たくさんのドミニカ人に受け入れられ、助けられて2年間の派遣を終えることができました。私はボランティアだと思って活動していましたが、私の活動に無償で協力してくれたドミニカ人こそがボランティアでした。私が見つけた知識はちっぽけなものです。その人にとっての最善が何なのか

ドミニカでの経験が
いるんところで
活かせるといいね!



少年達と笑顔で撮影

田中 聖美 さん

平成17年度3次隊
職種:看護師
派遣国:ドミニカ共和国
任期:2006年3月派遣
~2008年4月帰国
現在、札幌市立大学看護学部で勉強中。

現在は札幌市立大学の看護学部編入して、新たな価値観を得ているところです。先日はJICAマレーシア青年研修員との交流の機会もありました。人との関わりが私をいい方向へと変えてくれている気がします。これからも世界中の人との関わりを大切にしていきたいです。



ドミニカの母娘と田中さん

